

大雪に見舞われた福井

強い冬型の気圧配置が2月3日(土)から続き、上空5000メートル付近でマイナス30度以下の強い寒気(平年より10度以上低い)に広く覆われ、日本海側を中心に断続的に雪が降り大雪に見舞われました。



福井市では、昭和56年の豪雪以来37年ぶりに積雪が140センチを超える大雪となりました。茜会でも降り積もる雪に追い付かず職員は懸命な除雪作業を行いました。

2月6日には、国道8号線の丸岡町一本田からあわら市熊坂の約10キロ区間で約1500台の車が立ち往生し長時間通行止めとなり、県は自衛隊に災害派遣を要請しました。170人の隊員が車周辺の雪をスコップで手作業の除雪作業を行いました。雪の影響により出勤できない



自衛隊による除雪作業

い職員や2〜5時間かけて歩いて出勤した職員が続出しました。また、自宅の除雪が出来ていない職員は家に帰れず3



坂井市役所に届いた物資

日間も泊まり込む職員がいて、泊り込んだ職員は、備蓄用の食料や、歩いて通勤した職員から、おにぎりやみかん、カップ麺などの差し入れなどを食べて過ごしました。デイケアでは、路面状態の影響により2週間閉鎖となりました。

病院外来では、国道で雪に閉じ込められたトラック運転手が脱水症で緊急搬送され、点滴や食事の提供をして治療に当たった。入院患者や施設利用者の生活は、少ない職員での対応でしたが事故もなく進めることができました。

栄養部は、食料が届かない品があり、献立の変更や備蓄用のレトルトカレーを使用し、カレーライスとして利用者の食事提供を行いました。

ケアマネジャーやヘルパーは、独居世帯や高齢者世帯者に、市から提供されたパンを持ち、雪を掻き分けながら利用者宅を訪ね安否確認を行った。そして利用者からは、「買い物に行けんし、パンを持って来てくれてありがとう」や、「こんなうれしいことはないわ」と言う声が聞けました。また、灯油がなくなり暖房器が使用できないという利用者のために、ソリで灯油を運んだ。

短いはずの2月、今年はとも長く感じられました。職員一丸となり困難を乗り越えることができ、今後の災害対策も考える事ができました。(老健 阪下)



藤田 収氏

お悔み

元奈良女子大学教授(数学科)

昭和6年、羽崎から生まれ、福中から丸岡高校第一期生として卒業し京都大学。その後、文化勲章受章の岡潔教授に従事し跡を継ぐ。趣味囲碁。当理事長の叔父。2018年4月27日没。

副院長就任



この度、副院長に就任致します。私は30年前に理学療法士として茜会に入職し、その間、老健施設やグループホームの開設、病院の増築、有料老人ホームの開設に携わってきました。職員も40名から200名を超える組織と大きくなりました。

長年、リハビリ業務を行ってきましたが、これからは別の立場からの見方が求められているものと思っております。私は専門職ですので、茜会職員の技術・スキルの向上・および質の向上を目指したいと思えます。次に仕事しやすい職場環境が作れるとよいと思えます。

このことが地域の皆様信頼していただける病院、施設になるために必要なことだと考えています。今後は、患者様、職員の方々のご意見を取り入れながら、茜会の発展のために努力したいと考えております。今後ともよろしくお願致します。